

## 口腔清掃が唾液中の細菌数の増減に影響を及ぼすかの検討

著者	原 久美子, 東 麻夢可, ? 清華, 金久 弥生
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	12
ページ	27-27
発行年	2018-10-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1492/00001010/">http://id.nii.ac.jp/1492/00001010/</a>

4-P-14

## 口腔清掃が唾液中の細菌数の増減に影響を及ぼすかの検討

原 久美子<sup>1)</sup>東 麻夢可<sup>1)</sup> 濱 清華<sup>1)</sup> 金久弥生<sup>1) 2)</sup>

**目的：**誤嚥性肺炎は、口腔内細菌を誤嚥することにより発症する深刻な問題である。米山らの、口腔ケアの実施により肺炎の発症率が減少したという報告がある一方で、Pabo らは、電動歯ブラシでの口腔清掃は人工呼吸器関連肺炎の予防にならないと報告した。本研究は、口腔清掃後に唾液中の口腔内細菌が増加するという仮説をたて、口腔清掃と唾液中の細菌数の増減の関連を明らかにすることを目的とした。

**対象と方法：**対象は、本学短期大学部口腔保健学科 1 年生で同意を得られた 77 名である。唾液中の細菌数の測定は、細菌カウンタ®を用い、口腔清掃は学生自身の日常の方法で 3 分間行った。唾液採取は、口腔清掃前、口腔清掃終了直後、口腔清掃終了 1 分後、口腔清掃終了 3 分後、口腔清掃終了 10 分後に行った。また、唾液分泌量の測定は安静時と唾液採取と同様の時系列で行った。

**結果：**1. 口腔清掃直後に口腔内細菌数は有意に増加した。また、口腔清掃終了後から、3 分経過後には口腔清掃前の細菌数に近づいた。2. 安静時唾液量の多い群と少ない群においての安静時の口腔内細菌数に有意な差はなかった。3. 安静時唾液量の多い群と少ない群においても、口腔清掃直後に口腔内細菌数は有意に増加した。また両群とも、口腔清掃終了後から、3 分経過後には口腔清掃前の細菌数に近づいた。

**結論：**口腔清掃直後に唾液中の口腔内細菌が増加し、口腔清掃が唾液中の細菌数の増減に影響を与えることが示唆された。

---

1) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 2) 明海大学保健医療学部口腔保健学科設置準備室